



★ミナミアオカメムシを丹後地域で初確認★ ★丹波地域では誘殺量が多くなっています★

ミナミアオカメムシは水稲・豆類・野菜類等多くの品目を加害する南方系のカメムシです。京都府では平成22年に山城地域で初めて発生を確認し、近年は丹波地域まで発生が拡大していました（図1）。

本年8月下旬、京丹後市に設置している予察灯（白熱灯60W）で初めて誘殺を認めました。また、亀岡市に設置している予察灯では、多発した昨年に引き続き本年も平年比多い誘殺を認めています（図2）。

これから登熟を迎える黒大豆や開花を迎えるアズキなど特に豆類で、吸実性カメムシ類としての被害が心配されます（図3）。



図1 虫の外観と似たカメムシとの見分け方

ほ場を見回り、本虫を含む吸実性カメムシ類の適期防除に努めましょう。

防除についての詳細は、当所が令和7年8月21日付けで発表した「病害虫発生予察注意報第2号、吸実性カメムシ類」を参照にしてください。

https://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/chuui2025_02.pdf

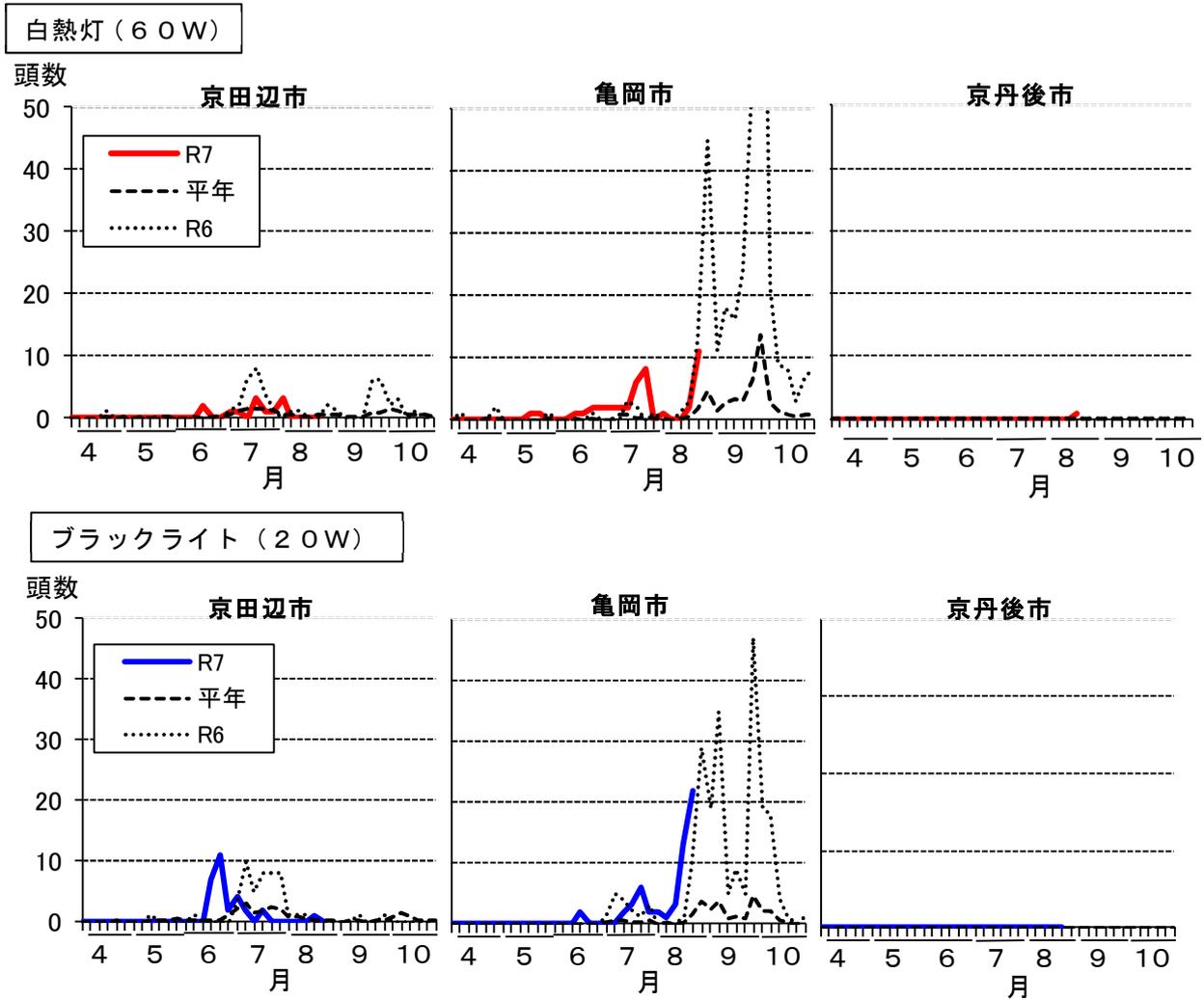


図2 予察灯におけるミナミアオカメムシの誘殺状況



図3 吸実性カメムシ類の被害 (黒大豆)